

清流の国ぎふ

岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標 【小学校】



～目指す人間像～

「ふるさと岐阜」で育んだ自信と
誇りを胸に、よりよい未来の実現に
挑み続ける人

～岐阜県が求める教師像～

- 児童生徒を一人の人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添う教師
- 誰一人悲しい思いをさせない、愛情と使命感あふれる教師（高い倫理観・使命感）
- 指導方法を工夫し、児童生徒に確かな学力をつける教師（確かな専門性）
- 幅広い教養と高い専門性をもち、常に学び続ける教師（学び続ける向上心）

		【基礎形成期】	【資質向上期】	【資質充実期】	【資質貢献期】
学習指導	スタートライン	意欲的に授業実践や学級経営に取り組み、教職の基礎を固める。	学校の中核として実践を積み上げ、専門性を高め、推進力を発揮する。	活力ある学校運営を企画・調整・実践し、リーダーシップを発揮する。	学校管理や他の教員等への指導を行い、広い視野で組織的な運営を行う。
	授業実践	小学校に関する学習指導要領、評価規準・評価方法等を理解し、それらを踏まえた指導計画を作成することができる。	学習指導要領の目標や内容、評価の観点等を踏まえ、ねらいを明確にした指導計画を作成することができる。	小・中学校9年間の系統性、児童の発達の段階を踏まえて指導計画を作成することができる。	学校の課題、学習指導要領の改訂等を踏まえた指導計画を作成され、全校体制で取り組めるよう働きかけることができる。
	評価改善	免許教科を主軸とした得意分野をもち、ねらいを明確にした授業となるよう指導・援助を行なうことができる。	各教科の特性を理解し、児童一人一人に確実に基礎・基本が身に付くよう指導・援助を行なうことができる。	授業モデルを示すなど、授業実践のリーダーとして指導方法を積極的に他の教員等に広めていくことができる。	学校の課題を踏まえ、学力向上に向けた実践を他の教員等に伝えたり、適切に助言を行なうことができる。
生徒指導	児童理解	児童と共に活動する楽しさや喜びを経験し、児童理解の重要性について理解している。	進んで声をかけ、共に活動をする中で、児童一人一人のよさや課題を客観的かつ共感的に把握することができる。	児童の行動とその背景にある思いを把握し、共感的に理解した上で、個に応じた指導を行なうことができる。	様々な情報に基づいて児童一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行なうことができる。
	生徒指導	教育相談、生徒指導、キャリア教育等に関する基本的事項や指導方法等について理解している。	問題行動等を早期に発見し、学年職員等に相談して迅速に対応することができます。	関係職員と共に児童の状況を共有し、適切な指導方法を判断して対応することができます。	関係職員や保護者等と協力して、児童の状況を共有し、組織を生かして指導方法を判断し迅速に対応することができます。
	キャリア教育	発達の段階に応じた基本的な生活習慣の指導を行なうことができる。	学年の発達の段階に応じた役割をもたらせる等、自己有用感をもたらせる指導を行なうことができる。	学校のキャリア発達課題を明確にし、その方策を提案し、学校の基点となって実践することができます。	学校のキャリア発達課題に対する方策を明確にもち、モデルとなる実践を行うとともに、指導内容の改善に向けて助言を行なうことができる。
経営・分掌	学年・学校経営	教員の職務内容や学校組織等について理解している。	担当する校務の役割を理解し、責任をもって行なうことができる。	学校全体を見渡し、課題を改善しながら校務を行なうことができる。	校務全般に関して理解を深め、組織を生かしながら校務を推進することができます。
	連携・協働	他の教員等のよさに学び、相談・協力することができるとともに、保護者との連絡を密にし、望ましい関係を築くことができる。	組織の一員として、他の教員等と協働したり分担したりしながら、協力して取り組むことができる。	他の教員等の取組状況を把握し、連絡・調整をし、それぞれの専門性を生かしながら組織的に諸課題に対応することができます。	広い視野をもち、関係機関や保護者・地域等と連携し、学校における働き方改革に資するよう効果的に諸課題に対応することができます。
	危機管理	児童の安全や個人情報の重要性を理解し、「報告・連絡・相談」を大切にして適切に行動することができます。	事故等の発生時や未然防止について、場面に応じて迅速に行動することができます。	関係機関や保護者・地域等と連携し、事故等の未然防止や発生時における迅速な対応を行なうことができます。	学校を取り巻く環境について家庭・地域・関係機関との協力体制を整えるとともに、適切に対応することができます。
特別な配慮や支援が必要とする児童への対応		特別な配慮や支援を必要とする児童について、合理的な配慮の提供や組織的な対応の必要性を理解している。	個別の教育支援計画や個別の指導計画等を基に、一人一人の障がいの特性や教育的ニーズ等を把握し、ユニークサルデザインの授業づくりに生かすことができる。	個別の教育支援計画や個別の指導計画等を定期的に見直しながら、一人一人の個性を生かした学びの実現のために工夫改善を行なうことができる。	全般的な支援の充実に向け、個別の教育支援計画や個別の指導計画等の活用を推進し、組織的・継続的な支援のために主体的に働きかけることができる。
ICTや情報・教育データの利活用		ICTを活用した学習指導や校務の推進及び児童に情報モラルを含めた情報活用能力を育成することについての意義や効果を理解している。	授業や校務等にICTを活用でき、児童の情報モラルを含めた情報活用能力を育成するための授業実践等を行なうことができる。	ICTを効果的に活用した授業実践等を行い、校務の効率化及び児童の学習や生活の改善を図るために、教育データを適切に活用することができます。	自らのICT活用指導力を高め、これまでの経験を踏まえた活用方法を提案したり、実践したりすることができます。

多様な経験が教員生活を豊かにするという視点から、例えば特別支援学級や日本語指導教室等での指導を経験することが考えられる。

【基礎形成期】	【資質向上期】	【資質充実期】	【資質貢献期】
・自分の得意な内容、領域を見付けられる。 	・自分が得意な内容、領域を磨いている。 ・他の人がもっているものによさに気付き、取り入れてみる。	・自分の知恵や経験が他の人に有用であることに気付く。 ・異なる見方や価値観を受け入れ、面白いと感じる。	・若手や同僚に共感する。 ・自分の知恵や経験を活かす場がある。

教員が成長し続けるために大切な姿